

マーケットの動き（2026年1月13日～1月16日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。高市首相による衆議院解散観測を背景に財政拡張への懸念が強まり、債券は売られました。その後、地政学リスクの上昇や、立憲民主党と公明党による「中道改革連合」結成の発表などを受け、買い戻される場面もありましたが、円安の進行に伴い日銀の利上げ観測が高まったことで、金利は再び上昇に転じました。クレジット市場は、一部に売りがみられたものの、堅調に推移しました。

投資環境見通し（2026年1月）

国内長期金利に対する上昇圧力は残る

日銀は12月の金融政策決定会合で利上げ再開を決定し、日銀総裁は今後も利上げ路線を継続する姿勢を示しました。その後もなお、政策金利の到達水準を巡る思惑や財政拡大政策を背景とした需給悪化懸念は残ることから、国内長期金利に対する上昇圧力は残るとみています。ただし、今後の利上げ継続についてはすでに相当程度織り込まれたとみられることから、国内長期金利の上昇余地は限定的とみています。

	1月16日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.18	0.09	0.23	0.59	0.95
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	333.42	▲0.57%	▲1.38%	▲3.19%	▲6.13%

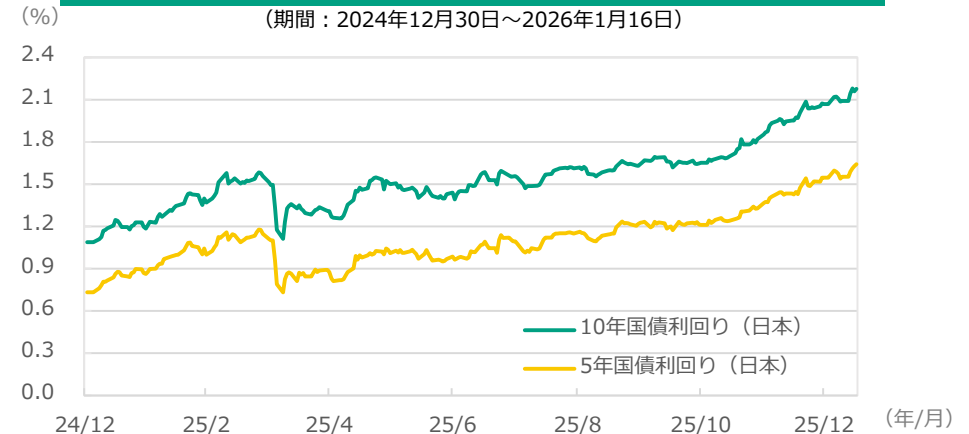
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202601_outlook.pdf

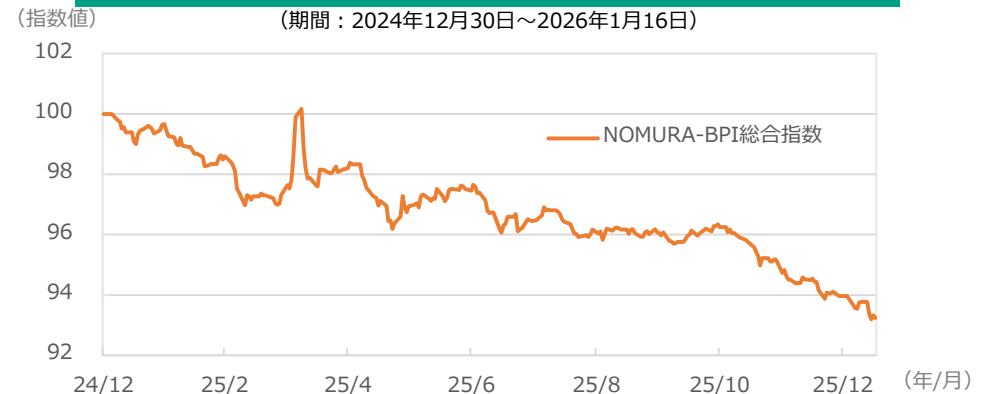
日本国債利回りの推移

（期間：2024年12月30日～2026年1月16日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2024年12月30日～2026年1月16日）



※2024年12月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>